

# 三重県沿岸域における水産資源の資源評価体制構築事業

## イカナゴ資源管理推進調査

林 茂幸・岩出将英・勝田孝司<sup>1)</sup>

1) 津農林水産事務所

### 目的

伊勢湾におけるイカナゴ漁業については、適切な親魚資源量確保のための終漁日設定等、翌年漁期を考慮した資源管理はほぼ定着しつつあるが、漁獲量の変動は大きく変動し続けている。そこで、必要となる科学的知見を収集し、自ら資源管理に取り組む漁業者に必要な情報を提供することにより、より高位で安定的な漁獲水準を維持できるようにすることを目的とする。

### 方法

#### (1) 夏眠魚調査

伊勢湾口の出山夏眠場において、親魚となる夏眠魚をから釣りにより定量的に採集し、分布密度、魚体サイズ、夏眠開始期の栄養状態、夏眠魚の年齢組成等を調査した。

(実施時期：6、10月)

#### (2) イカナゴ仔魚分布調査

ボンゴネットによるサンプリング調査を行い、イカナゴ仔魚の加入時期、発生量、成長量等を把握し、解禁日決定の資料とした。(実施時期：1～2月)

#### (3) 市場調査・資源量管理

各操業日毎に漁獲物の魚体測定、漁獲努力量、漁獲量データを収集、解析することにより、加入資源量及び残存資源量を算出し、終漁日決定の資料とした。

### 結果および考察

#### (1) 夏眠魚調査

7月31日に神島の南東約10kmの出山海域で実施した夏眠魚の空釣り調査の結果、採集魚は当歳魚及び2歳魚を含め46尾/km(昨年659尾/km)であり(図1)、うち2歳魚の割合は11.8%(昨年3.8%)であった。

採集魚の大部分を占める当歳魚の平均体長は86.1mm(昨年80.2mm)、平均体重は2.75g(昨年2.06g)、平均肥満度は4.26(昨年3.95)であり、前漁期に比較して大型であり肥満度も大きかった。

しかしながら、10月9日に2回目の夏眠魚調査を実施したところ7月調査時の46尾/kmから2尾/kmに減少していた。

なお、10月調査時に夏眠魚調査定点ライン付近にて採泥を行い底質を調査した結果、粒度組成は粒径0.5から2mmを主体とする砂質で泥分もほとんどなく、AVSについてもNDなど底質は良好であった。

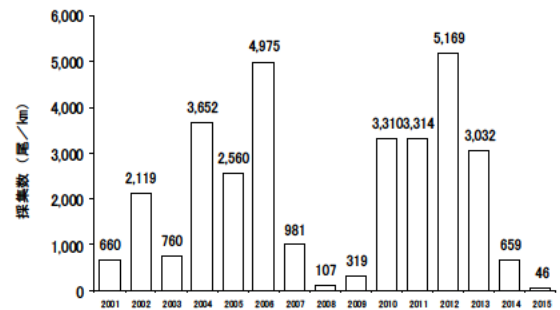


図1. 出山における夏眠魚採集数の推移

(5月下旬又は6月上旬採集 ※2015年は7月)

#### (2) イカナゴ仔魚分布調査

平成28年1月14～15日にボンゴネットによるイカナゴ仔魚の分布調査を実施した結果、伊勢湾全域において採集されなかった。

2月18～19日に実施した調査でも採集できたのは1測点のみで、湾内全測点を平均した採集尾数は0.05尾/m<sup>2</sup>となり、昨年や平年と比較して非常に少なかった。

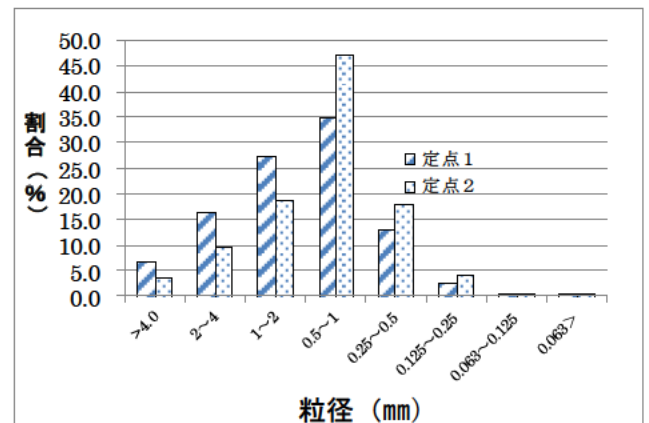


図2. 底質組成

このため、過去 10 年間で最も加入資源量が少なかった 2009 年漁期をさらに下回る可能性があると思われた。

加入資源量の主な減少要因としては、夏季の高水温（25℃以上）の影響による夏眠魚（親魚）の減少や冬季の高水温（1 月の伊勢湾底水温 平年+2℃）の影響による産卵不良などが推定される。

表 1. ボンゴネットによるイカナゴ仔魚採集量

		単位：尾／㎡ ※愛知水試のデータを含む					解禁日	加入量 (億尾)
		1月上旬 伊良湖前	1月中旬 伊勢湾平均	1月下旬 全湾平均	2月上旬 伊勢湾平均	2月中旬 伊勢湾平均		
2006	H18	1 015	176	130	175		3月9日	651
2007	H19	873	228	98	32		2月27日	182
2008	H20	145	55	18	13		3月2日	180
2009	H21	0	8	3	1		3月8日	44
2010	H22	643	236	216	310		3月3日	504
2011	H23	78	195	62	30		3月11日	283
2012	H24	141	118	60		25	3月8日	321
2013	H25	233	71	21	27		2月28日	302
2014	H26	815	26	70	29		3月2日	292
2015	H27	57	40	1	3		3月6日	89
2016	H28	0	0	0.07	0.04	0.05		

### (3) 市場調査・資源量管理

#### ①2015 年漁期

2015 年漁期は 3 月 6 日（昨漁期 3 月 2 日）に解禁し、3 月 31 日（昨漁期 5 月 15 日）に終漁した（愛知県は 3 月 27 日終漁）。出漁日数は 10 日（昨漁期 36 日）、漁獲量は約 1,886 t（昨漁期の 25%）、水揚げ金額は 2 億 7,720 万円（昨漁期の 44%）となった。

2015 年漁期の加入資源尾数は 89 億尾と推計され、三重・愛知両県で 56 億尾漁獲し、残存資源尾数（2016 年漁期の親魚候補）は 33 億尾と推定され、目標とする 20 億尾を確保した。

#### ②2016 年漁期

三重・愛知漁業者の協議により今年のイカナゴ資源量が極端に少ないとの判断から、来年産卵する親魚を確保するために、今年のイカナゴ漁の解禁を見合わせる事が確認された。